

会 議 録

会議の名称	第3回長岡京市地域健康福祉推進委員会児童福祉部会
開催日時	平成16年11月2日(火) 午後1時30分開会～午後4時00分閉会
開催場所	長岡京市役所 4階 大会議室
部会長	安藤和彦委員
出席者	安藤和彦委員、川畑委員、森脇委員、工藤委員、室園委員、田村委員、三代委員、山科委員、大久保委員、古賀委員、富岡委員、天木委員、川又委員、安藤ルリ子委員、有馬氏(小川委員の代理出席)  (以上15名)
欠席者	大橋委員、澤田石委員、三田委員、橋本委員
議題(案件)	1) あいさつ 2) 長岡京市次世代育成支援行動計画(素案)について 3) 子育て支援サークル等実態調査について 4) 平成15年度長岡京市児童育成計画事業概要報告書(案)について 5) 今後の予定について 6) その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長岡京市次世代育成支援行動計画 (仮称)新・健やか子どもプラン &lt;素案&gt; (No1)</li> <li>・ 特定14事業に係る目標量見込み数値決定について (No2)</li> <li>・ 次世代育成支援行動計画の施策体系(案)への児童福祉部会委員からの意見 (No3)</li> <li>・ 子育て支援サークル等実態調査について (No4)</li> <li>・ 長岡京市児童育成計画(健やか子どもプラン)平成15年度事業概要報告書(案) (No5)</li> <li>・ 平成15年度児童育成計画施策展開の進行状況 (No6)</li> </ul>

議 事 の 経 過	
発 言 者	意 見 要 旨
	(開会)
	1) あいさつ
部会長	○あいさつ
事務局	○資料確認
	2) 長岡京市次世代育成支援行動計画（素案）について
部会長	・ 素案について事務局よりご説明願いたい。
事務局	・ 資料1～3の説明をしたいと思いますが、資料1についてはサーベイリサーチセンターより説明していただく。
サーベイリサーチセンター	○資料1説明
事務局	○資料2、3説明
部会長	・ 資料に基づいて行動計画の素案と事業目標量についてのご説明をいただいた。これについてご意見、ご質問があればお願いしたい。
委員	・ 特定14事業の中には補助金が出ている事業もあると思うが、その中に補助金打ち切りの対象となっている事業はあるか。
事務局	・ 今回お示しした事業については特別対策事業や特別保育事業にあっており、一定の補助金は確保出来ていると思う。通常保育事業については、公立保育所の一般財源化を既に行なっており、今後民間保育所の一般財源化を進めようとしているが、実際にどうなるかは、まだはっきりしていない。その他に、新施設を設置する場合の財源を一般財源化の方向へ、ということも謳われているので、最終的にはっきりした状況ではない。
委員	・ 36ページに「子育てに関する情報提供の充実」という項目があるが、先日6か月までの子どもを持つ親子の集まる場を作った時に、

事務局	<p>情報がすごく不足している為、6か月ぐらいまでの子どもを連れて行く場所が無いということだった。長岡京市に来て2年未満の方がほとんどだったので、公園がどこにあるかもわからないのである。そういう意味でも情報提供は大事だと思うので、分かり易くて、すぐに手に入るようなものを作っていただければ有難い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の件については、以前にも子育てマップのようなものは作成しているが、もう古くなっているので、今後新たに子育てマップ、子育てに関する情報誌のようなものを、本市としても作成していくべきではないかと思っているし、子育てのネットワーク的なものも、今後作っていききたい。今回は子育てに関するNPO団体の方や子育てグループの方にもアンケートを取ったので、その辺の関係も合わせて、今後そういうものも作っていく必要があるのではないかと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政側から発信される情報、あるいは住民側から出てくる情報、それぞれを受け止めていくシステムが今後必要になってくると思う。更に紙の情報だけではなく、インターネットで家に居ながらにして情報を取り寄せられる時代も間もなくやって来ると思うので、そういう視点の中から情報の管理と提供の2点を考えなければならない時代に入っているのではないかと考える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・26～27ページの「地域で安心・安全に子育てができる環境づくり」のところだが、今学校そのものが狙われているということがあるので、例えば学校安全ボランティアを導入する等、お金のかからないことや、施設の安全管理面と耐震性の問題等については、ここに入れるべきかどうかはわからないが、そういうことを望んでいる人はいるのではないかと考える。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは各課で受け持っている予算のついてる事業を列記しており、今後新しい事業も出てくるかもしれないので、中身については担当課に精査していただき、もう一度見直すつもりである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全ボランティアは、市で決めているのか、それとも学校毎に決めているのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には各校長がお願いして協力していただける範囲でやっているということだが、保護者も忙しいのが実情なので、思うように継続することは困難なようである。また、市には防犯ブザーの配布や防犯カメラを設置するなどの施策を行なっていただいているが、運用は各学校により違う。市からは安全指導の通知は出るが、各学校</li> </ul>

委員	<p>が地域に協力していただいで実施しているのが実状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月に施行された児童虐待防止法で、市町村が通告を受けて子どもの安全確認まで行ない、保護が必要なケースについては児童相談所に要請するという事で、市町村と児童相談所との連携が打ち出された形になっている。その上で第一次相談事業を市が取り組むという事で、京都府としても市町村に向けての説明会、児童相談所と市町村の話し合いや研修会もやっていこうという企画がある。それでここに「相談機能の充実と連携の強化」ということを書いていただいているのだが、虐待だけではなく、全般的に複数の人達でチームを組んで話し合いながら実際に動いていかなければ進んでいかない。そして実際に相談を受ける職員の精神面をバックアップする機能も同時に求められてくるので、人員を含めてその組織体制の充実ということについてもお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2の7ページ「目標設定に向けての取り組みについて」に、「幼児教育振興プログラムの策定」とあるが、これは文部科学省も昔から言っているが、なかなか策定されていないようである。この計画の位置づけをはっきりさせるためにも、前期の見直しの21年度までには、この中に何とかして盛り込めないか。確かに「▲」印が付いているので必要ないのかもしれないが、やる価値はあると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園は教育委員会の管轄で、本市には市立幼稚園が無いという面もあり、今後の流れとして幼保一元化になるのか、最近では総合施設という問題も出ているので、教育委員会とは今後これについても詰めていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代の計画を自治体が一生懸命に作っていただいていることも、それが大変なことだということもわかるのだが、5年間かければ出来ないかと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今のご意見については、我々としても今すぐに答えることは出来かねるので、教育委員会の部局の方へも、そういう話があったということは伝えたいと思うし、この後進行管理の問題があるので、その中でも検討させていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理念の書き方が不十分ではないか。基本的なものの考え方の表現の仕方ではないかと思うのだが、例えば「家庭責任」という言葉が使われているが、行政が「家庭責任」と言うと、あまりにも個人のことと踏み込まれているような感じがする。これは「家庭を構成する</li> </ul>

	<p>一人一人の自覚の下に安らぎのある家庭を築く、その責任はやはり家庭にある」というように丁寧に言われた方が誤解を招かないのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画で子育てを課題として捉えられているが、まだ男女が平等に子育てをしていく現状ではないので、男女共同参画というよりも、男性がもう一歩子育てについて踏み込んでやっていく、ということをごどこかに強調していただきたい。両方が出来て「男女共同参画」という言葉ならいいが、家庭の中の子育てや労働の分野でも女性の方が担うところが多いので、「男女共同参画」と言う前に、やはり男性も一層努力してからそういう言葉が入ると嬉しい。</li> <li>・核家族化が進んで一番問題なのは、世帯間の交流が無いということである。子育て世帯は子育て世帯、高齢者世帯は高齢者世帯というように、世帯毎が縦割りになっていることが、地域づくりの中ではとても問題ではないかと思うので、子育て世帯と高齢者世帯がどのように交流しながら地域の中で子育てをしていくのか、ということも強調していただきたい。</li> <li>・今幼稚園の問題が出たが、3歳までの子どもは保育所や幼稚園へ行って初めて集団保育ということになるので、赤ちゃん時代からの親の仲間づくりや子どもの仲間づくりということも、もっともっと強調していただかなければならないことではないか。今幼稚園が2歳児の受け入れを特区でされているということだが、働いていない親が集団の保育を希望すると、保育所の壁は高く、もっと自由に入れるような体制が必要なのではないかと思っている。保育に欠ける理由も複合的な家庭が随分増えてきているので、そういう人にとっては大変大きな問題ではないかと思うので、もう少し幅広く、サークルやボランティア等、地域の皆さんが子育て支援をしていくことも含めて、どのような集団保育をしていくのかということは、検討すべき大きな課題なのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは確かに近畿で唯一の特区で2歳から受け入れているのだが、私は反対してこの特区には参加していない。その一つには、2歳の子どもは集団保育にはなじまない、親と一緒に居る方が発達上望ましいと考えているからで、それが非常に大事なのである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子どもの場合は親子の環境を大事にしないといけないので、この「集団保育」という言葉よりも、「親子共々に集団の場を持つ」というふうに思っている。誤解されたのなら言い直しておきたい。私達がやっているのは親子で来てもらう遊びの場である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も、子育てというところどこかへ行かなければならないような風潮が多いと思うのだが、外へ出て人と交わらなくても、まず母親と一緒に</li> </ul>

	<p>に楽しくゆっくり過ごせることが、2歳まではとても大事だと思う。だから、風邪等で長くサークルを休むことをすごく気にする母親もいて、親子を追い立てるような事業がどんどん進んで、子育て支援は大事だが、マニュアル的な子育ては非常に危険だと思う。近所の公園で母親と一緒に遊べる方がいい、という感じをもっと強調しないと、母親は自分が情報を知らないことにすごく焦りを感じて、子どもとぼんやり過ごすことに罪悪感を持っているようなので、やはりそれは直さなければいけないと思う。病児保育や休日保育も、出来ることはいいことなのだが、本当は病気の際は母親が家で見てあげる、たいした手当ては出来ないかもしれないが、母親と病気を治すということは大事なので、やはりそういう視点はいつも大事にしていかないと、病児保育を沢山作ると親がどんどん働いていい、というものでもないし、そういうことを少し基本のところに入れていかないと、母親に育児を勉強させることばかりになってしまうので、そこは少し強調していただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく母親になる人は、両親学級で新しく父親になられる方と、一緒に話を聞いた方がいいと思う。初めて子どもを持たれる人は、女性は自分が妊娠するので親になる自覚が芽生えるが、男性は自分が妊娠するわけではないので、生まれてみて初めて実感を得られることが多々あると思う。やはり新しく父親になる人も、親としての勉強が出来る場があればいいと思う。そして、新米の母親達がマニュアル化してしまうのは、やはり少子化で周りの子どもと関わる機会が無いので、子どものことが全くわからないからだと思う。周りの何気ない一言でも、何もわからない母親はかなり傷つくので、マニュアルが無くていいとは言わないが、マニュアルに拘らずに、全く何も知らない人達にも、子どもを育てるのは大変なことではないということを伝えられる場が出産前に一度でもあると、随分と気持ちの持ち方も違ってくると思うし、子どもを産むのもそんなに辛いことではないと感じられると思うので、母親学級だけではなく、両親と一緒に参加出来る場を充実させていただきたい。</li> <li>・子どもが集まる公園が何年かごとに変化しているようで、皆が集まる所に遠くても行っていると聞いた。市が集めていただいた情報は、勿論転入されて来た人にとってはとても有力な情報になると思うのだが、地域の同じ年代の子どもがいる方との交流の方が、やはり生の情報なのでわかりやすいのではないかと思う。公園もそんなに毎日行くという意識を植え付けずに、情報には囚われずに、自分なりに楽しくゆったりと子育て出来ればいい、というような教室を充実させていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児医療の費用のことだが、過疎の地域や少子化の進んでいる地</li> </ul>

	<p>域では就学までの医療費負担が外されてきている。長岡京市は3歳を過ぎれば医療費が必要になり、合計月額8,000円を超えた部分については返還されるのだが、そのぎりぎりぐらいで負担されている人も多い。どこの地域も少子化対策の中心として乳幼児医療の拡大をされているのだが、長岡京市では特にこの計画ではそれが書かれていなかったのもので、どのように考えておられるのか。また、月額8,000円を超えて返還を申請される人はどれくらいいるのかをお聞きしたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児医療の助成事業についてだが、長岡京市では平成15年度から乳幼児医療の拡大を図り、今までは入院・外来とも3歳未満という制度から、入院については就学まで、外来については1か月8,000円を超える部分については償還払いという形で実施している。今後については、まだスタートして間が無いということもあり、今のところはもう少し様子を見ていきたいと考えている。件数については後程説明すると思うが、資料5の13ページに15年度の取り組み実績ということで挙げているので、参考にしていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・41ページの基本的な考え方のところ、2行目に「子育て意識が薄い地域状況～」とあるが、決して長岡京市が薄いとは言えないと思う。むしろ多様化している。京都でも大変恵まれた地域で、教育要求水準も非常に高い地域であり、子育てについても大変熱心である。格差が広がっているということとは言えるかと思うが、意識は薄くはないと思う。</li> <li>・4行目に「地域の教育力を強化し、家庭の教育力を復活させる～」とあるが、「復活」というと、教育力が全く無いような印象を受ける。格差が広がっているということは経験上言えると思うのだが、適切な表現では無いのではないかと思うのと、地域の教育力が確かに低下してきているということとも言えると思うが、それを強化して家庭の教育力を復活させることを待っていたら、いつまでたっても復活しないのではないかと思うので、「地域との連携」という意味合いの表現の方がいいのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章表現については、担当課と最終的な擦り合わせをする必要があるため、これを11月の中旬までに各課に照会していく予定にしている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここに当てはまるものがあるかわからないのだが、地震のニュース等を聞いていて、年齢に応じた対応は難しいと思うのだが、乳幼児、特に生まれたての赤ちゃんの災害時等の緊急の対応が必要</li> </ul>

委員	<p>ではないかと思う。哺乳瓶の消毒や、沢山の人の中で小さな赤ちゃんと一緒に、しばらくの間でも暮らすのはなかなか難しいと思うので、その辺の対応も盛り込まれていくといいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 35ページの「子育て支援のためのネットワークづくり」に関して、質問と意見も含めて申し上げる。1～2行目に「子ども会活動やボランティア活動等を中心に～」と、中心とするべきものとして2つ挙げられている。それを中心とする背景、思いをお聞きしたい。様々なネットワークを作る上で、活用すればいいのではないかと思う組織は色々あるかと思う。例えば保育所の保護者会等、様々な組織を縦横に渡るようなネットワークづくり、情報が非常に風通しよく行き渡るような考え方を持ってはどうか、ということを感じた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今のご質問だが、子ども会活動については、例えば保育所の連合会等も当然併記すべきものなのだが、やはり地域で誰もが経験する、又は親が関わるという意味では子ども会活動というのが一番目立った存在ではないかということで、ここに例示している。それだけという意味ではないので、当然その他の様々な活動も入る。ボランティア活動については、最近、自主的に一生懸命取り組んでおられる方がいらっしゃるので、そういった方は一つの資源として、行政と一緒に手を取り合って地域の子育てを支援していくという意味で、大きな役割を担っていただける存在の一つとして挙げているだけで、それ以上の意味はない。</li> <li>・ 後半の件についてはおっしゃるとおりで、その辺の考え方については、この計画の中に考慮して謳い込んでいきたいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節ごとの行事を運営するのみで1年間を過ごすような子ども会もある。情報をネットワーク化することにおいて、これだけでは充分ではない。そういうところを補う上で、様々なものがあるので、多重に網をかけることによって洩れなく情報を、ということの主眼に置いた意見をいただいた。</li> <li>・ 前回の委員会で「長岡京市としての思想は？」というようなご質問があったが、理想もあるかと思うが、一方で現実の問題が出てくる。三位一体の改革や一般財源化の問題もあり、財政的に厳しい中で、全て実現出来るわけでもない。そこで一つの落とし穴があるのではないか。いわゆる企業の論理ということで効率化の問題が子育てや教育の方にまで及ぶと荒廃する。無駄は省いて当然なのだが、充分に手当てしなければならぬということにまで効率化が及ぶと、教育も子育ても荒廃するのではないか。だから、これだけは維持しなければならぬ、確保しなければならぬということに関して、</li> </ul>

	<p>こういう施策に関わっている皆さんには大変なご苦勞をお願いすることになる。予算措置のところで、効率化に馴染まないのが教育であり、子育てであるという意識をお持ちいただき、素晴らしい子どもが育つ長岡京市を、これまで以上に高めていただく努力を是非お願いしたい。同時に私達もそのための支援や、意見を申し上げる等、可能なことはやっていくべきだと考えている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今おっしゃったことには賛成で、そういう気持ちでやっていきたいと思っている。</li> <li>・26ページの「地域で安心・安全に子育てができる環境づくり」は、内容が狭すぎるのではないか。交通事故や道路等のハード面のことしか書いていないが、今私達はセーフティプロモーション、暴力やDVや虐待から子ども達を守っていく地域づくりという、人権的視点を入れた環境づくりを進めており、「安心・安全」という中にそのような視点を入れた取組みが進み始めていると思うので、これは片手落ちではないか。道路を作っただけで安心・安全な環境づくりが出来るということにはならない時代になってきているので、別項目として考えているなら、その一文をここにも入れておくべきである。小さい子どもにとって一番大きな問題は、家庭内事故なのである。家庭の中の事故防止の教育は、今京都市で啓発し始めており、これはあまりお金がかかることではないので、そういうことを親の背の高さで見ないで、子どもの高さで見ると、本当に家庭の中は危険だらけなので、その辺りももう少しやっていただきたい。それと「暴力の無い～」ということも必要だと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近自助や公助・共助といった形で、さまざまな状況が錯綜しており、行政が家庭の中の問題に立ち入るような形になるかもしれないが、家庭内の事故防止の啓発も行政として採り上げていかなければならない。事故というのは個人に起きる問題かもしれないが、それが広く一般化されてくると、やはり行政としては放置することは出来ない。今おっしゃったような問題は、今日の社会においては色々な家庭で起こっている問題であり、また今後も増えていく危険性があるので、こういった問題について行政は何らかの形で啓発し、考えていかなければならないと思う。そういった観点はこの計画の中にも謳われていくべきだと思うので、この計画をまとめる中で反映させていきたい。</li> </ul>
部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員から色々なご意見を頂戴したわけだが、このご意見を踏まえて、計画の手直しをしていただきたい。</li> <li>・次の案件に移らせていただく。</li> </ul>

<p>部会長</p>	<p>3) 子育て支援サークル等実態調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案件3) について事務局よりご説明願いたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<p>○資料4 説明</p>
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育てサークルへのアンケートについてご説明いただいたが、ご質問はあるか。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て中の親が自ら仲間を作っていく時には、子育てサークルはとても必要だと思うのだが、子育てしながら人の世話をし、企画して会場を確保することはとても苦しくて長続きしない、という話も聞く。親子共々行ける場所が本当に少な過ぎるので、公民館や幼稚園、小学校等のあらゆる公的な機関にこういう場を開放していただければ、自然にこういうものが発生していくと思う。今は大変数が少ないので、母親達はそこにその日に行かなければ、また一週間や一か月間は子どもを家の中で一人ぼっちで遊ばせなければいけないのではないか、という強迫観念がある。私はやはり数の問題が根底にあり、近所の公園でもいいので、そういう場があれば子育て支援の地域づくりが進んでいくのではないかと思う。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は長岡京市に引っ越して来たが、この自由意見の中で書かれているほとんどの事は横浜市ではやっている。自治会館は150円くらいで借りられるので、かなり楽に運営しており、人数もかなり多い。サークルの数も多かったのも、サークル間の交流や情報交換等もあった。また子育てサークルや子育て教室等の情報も、保健所や市役所の子育て掲示板に沢山貼ってあった。この資料を見ていると新しいサークルが多いが、保健所で実施している教室は1年で終わってしまうらしく、それにどうにか入れたとしても、結局1年経つと放り出されてしまうので、今集まっている仲間ですらサークルを立ち上げても結局長続きしなくて、消滅してしまうことが多いらしいが、それはやはり情報が少なすぎるからではないか。今幼稚園でも子育てサークルをしており、それが終われば新しくサークルを立ち上げようという話をしているが、資金や場所をどうするのか、幼稚園でもやってみたいが、学校でもやらせてもらえるのか、それは誰に聞けばいいのか、ということですごく悩んでいる。自分達もすごく悩んでいたから何かしたいのだが、それを公開する場が無い。インターネットはパソコンを全員が持っているわけではないので、保健センターや小児科や市役所等の掲示板でいいので、公開できる場があるとすごくいいと思う。これは個人レベルの問題で、市でどうこうしてもらえないものではないのだが、誰もが気軽に見られて、市役所</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>を通さなくても情報を公開した人に直接連絡出来る状況を作っておくと、サークル活動をして行き詰まらずにスムーズに楽しくやっ ていけ、他のサークルの情報もわかるので、サークル間の交流も増 えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに保健センターの健診で母親が心配事を書く欄に、「友達がいない」と書いている人は結構いる。特に4か月健診の方は本当に不安な状態で来られるので、うまく使ってほしいと思う。どうしてもサークルの情報は私達にはわからないので、やはりそれはすぐ にでも保健センターに置かれて、私達にもいただけると良い。</li> <li>・また、小児科の窓口はどんどん使っていて結構であり、私のところも狭い場所だが、色々貼っていただいている。直接窓口に言 っていただいても、多分拒む所は無いだろうと思う。ただ、内容の責任とどこまで貼るのか、ということだけきちんとしていれば、確 かに使える場はもっとあると思うので、今のご意見は参考にさせて いただく。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館は各地域にあるが、地域により一律200円で誰にでも貸し てくれる所、地域の人が一人でもいれば無料で貸してくれる所、地 域以外の人が入るのであれば、一切貸さないという所がある。これ は行政がどうこう出来るものではなく、地域の方々がその公民館を どう守っておられるかという問題なので、私もサークルで使いた いのだが難しい。また、長岡京市はサークルが結構少ないと言われ るが、人数が増えるとまとめないといけないということで人数制限 のあるサークルが多く、入会を申し込んでも断られるケースが結構 あるようである。そして続いていかない理由としては、場所や資金の 問題ばかりではなく、母親達の求めるものが多様化してきて、今ま でのようにただ遊ぶだけでいけばいいというものではなく、ニーズ の多様化についていけなくてやめてしまったサークルも沢山あると 聞いている。前に作ったサークルをずっと運営している方と、どん どん代替わりをしていくサークルとでは、かなりの格差が出ている のではないか。それもなかなか行政が入っていけるものではなく、 サークルの運営の仕方も個人的なレベルになってくるのではないか と、私自身サークルをしていて思う。情報というのは自分で探して いけば結構置ける所もあるし、見つけられる所もある。ただ、動か ないで情報をもらうということは難しいかもしれないが、動けばあ る程度の情報は入ってくると思う。ただ、やはり人数と活動場所の 確保は難しいものがあるので、その辺は今後の課題になるかと思う。</li> </ul>
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な経験や地域の事情等も含めてのご発言をいただいた。他に ご意見が無いようなので、次の案件に移らせていただきたい。</li> </ul>

<p>部会長</p>	<p>4) 平成15年度長岡京市児童育成計画事業概要報告書(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案件4)について、事務局よりご説明願いたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5については事前配布が出来なかったもので、この場で目を通していただいご意見をいただくのはなかなか難しいかと思う。お持ち帰りいただき、ご意見があればいつでもご指摘いただきたい。</li> </ul>
<p>部会長</p>	<p>○資料5説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今お渡ししてすぐに質問というものなかなか難しいのではないかと思うが、ご意見があればお願いしたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見があれば、いつでも事務局の方にお寄せいただければ、それをまとめて各委員にご報告させていただく。</li> </ul>
<p>部会長</p>	<p>5) 今後の予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の予定について事務局よりお願いしたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月18日に最終である第4回目の児童福祉部会を開催する予定である。ここで、この行動計画の最終とりまとめをして、来年度からスタートさせるということになる。今月中旬には庁内全部署へ行動計画の素案を配布し、ここに記載されている内容を精査し、今月末にその回答を取りまとめる。12月下旬までには行動計画案の策定を完了し、来年早々パブリックコメントを実施したいと考えている。そして2月中旬ぐらいにパブリックコメントをまとめ、2月18日に第4回目の児童福祉部会を迎えたいと考えている。そして、3月上旬に行動計画案を最終決定し、3月末行動計画の策定ということで、今後は進めていきたいと考えている。</li> </ul>
<p>部会長</p>	<p>6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他について何も無いようなので、次回は2月18日ということで、これが最終回となるのでご参加をよろしく願いたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は大変貴重なご意見をいただき、有難うございました。今後ともよろしく願いたい。</li> </ul> <p>(閉会)</p>